



# なつのがくも



本校ホームページ新  
QRコードです。スマホ  
などからも閲覧できま  
す。ご活用ください。

第179号 (R6. 6. 28)

練馬区立光が丘夏の雲小学校

## やる気を高める

校長 宮林 伸之

6月24日から28日まで、計画委員会による「あいさつ運動」が行われました。この5日間は、全校児童に「あいさつスゴロクカード」を配布し、進んであいさつ・返事ができるように計画を立てました。この期間、元気な子供たちのあいさつに包まれて、学校中が朝から活気に満ちています。あいさつ運動が終わっても、進んであいさつをすることができるよう願っています。

さて、やる気を持続させることは大人でも子供でも難しいことです。教育の場でもそうですが、ご家庭でも、いかに子供にやる気をもたせるか、やる気を持続させていくかということは、大きなテーマと言えそうです。

一般的に「褒める」ことは、やる気を高めると言われます。しかし、何でも褒めればいいというものでもないようです。

私が担任をしていた時に、国語の時間に書いた作文を読み合い、よいところを伝え合う学習を行いました。その際に、「ただ褒められることは嬉しくない。」と言った子供がいました。「自分が工夫した点や苦勞して書いたところを褒めてもらおうと、本当に自分が認めてもらえたように感じる。」と述べた子供もいました。また、「こうするとさらによいという助言をもらおうと、とても役に立つ。」と答えた子供もいました。

自分のことをしっかり見てくれている。自分のためにとまって言ってくれる。という思いが本人に伝わり、やる気につながるのだと思います。

先日ある絵本と出会いました。

「ひっくりカエル」（安部博志著、小学館）です。

この本は、言葉の意味をポジティブに変換させるカエルの話です。

ページをめくると、「泣き虫」は「心が優しい」に…「おとなしい」は「じっくり聞ける」に…「飽きっぽい」は「頭の切り替えが早い」に…変化します。

安部氏は、著書の中で次のようなことを記しています。

「マイナスの言葉は、見方を変えるとプラスに変身します。ネガティブな感情から開放されると、幸せな気持ちになります。お互いを温かく認め合えるからです。」と…

そしてリフレーミングについて述べ、「マイナスをリフレーミングできるようになると、自尊心が高まり、周りの人を尊重できるようになります。」と…

「リフレーミング」とは、捉え方の枠組み（フレーム）を変えることを言います。

リフレーミングを表現する上で、「コップ半分の水」という有名な話があります。コップ半分の水を見たときに、「もう半分しかない」と考えるのか、あるいは「まだ半分もある」と考えるのかによって、感じ方が大きく異なるという話です。リフレーミングとは、「物事の視点や枠組み（フレーム）」を「組み直す（リフレーム）」という言葉のとおり、物事を新しい視点から見る思考のプロセスのことを指します。

私たちは、固定概念や思い込みによって様々なことを捉えがちです。しかし、「人・もの・こと」の見方や考え方をほんの少し変えることで、その良さに気付くことができるかもしれません。

いよいよ残り3週間で夏季休業日が始まります。

まずは大人の私たちが、目の前のお子さんのネガティブな姿を肯定的なものに変えたり、新たな可能性を発見したりしてみる。このことが子供たちのやる気を高めることにつながると確信して取り組んでみたい考えます。